

占 春 会 報

第9号

発行 八尾市柏村169-3 八尾市立清友高校
占春会事務局 TEL (0729) 22-2067

なつかしの高安へ
全員集まりましたよう 語りましましたよう

六月十八日(日)が、なつかしの校舎で開かれる、最後の、記念すべき占春会総会になります。

現校舎とは今年度でお別れです。母校の府立移管と、それに伴う信貴山麓への移転とが決定、進行中だからです。

われらが母校に栄光あれ!! 清友の新生発展を心から祝うと共に、わが青春の哀歓をすべて知りつくしている教室に、柱に、校庭の木々に、運動場に、別れを心から惜しみようではありませんか。

この校舎に集う機会はこの六月十八日をおいて二度とないのです。

私たちの心が、いま母校に必要です。

府立に移管されても、清友という由緒ある校名と、四十年間築き上げられた伝統とは、引き続き、誇り高く守られるべきものであります。卒業生だけでなく、今後入学する人々のためにもです。

友よ、占春会の諸姉よ、清友の名を守るのに、私たちの団結と努力が今ほど必要な時はありません。

どんな形で、私たちの心をあらわしたらよいのか、それも、今回あなたと相談したいことの一つです。

六月十八日、ぜひお目にかかりたく思います。

占春会会長 河合 隼子

53年 総会のご案内

6月18日(日) 午後1時~3時
場 所 母校講堂

第一部 総会・新入会員歓迎会
決算報告

第二部 観劇と懐しの授業再現
演劇 還魂記(在校生演劇部による熱演)

授業 源氏物語 講師 西沢小枝先生

(プリントは用意しております)

当日は食堂も準備OK / 教室も開放されますので、各回毎ににぎやかにクラス会をお開きください。

タイヘンだ

清友の名が消える！

われらが日々に

清友の名を残せ

時の流れと渦にもまれ、母校は府立高校になりますが、私たちにとって最も大切な「清友の校名を残す」ことは未解決のままです。というより、新しい課題としてなお真剣に取りくまねばならぬことになりました。

移管決定が新聞に報道されたたん、今までひそかに心配し続けてきた占春会員の気持は、わっと叫び声になり、どうなるの？ くらい、どうしても残さなくては、とこたえました。いまわ。

タテマエ論はいやです！

「府立高校はその所在地の名をつけるのが原則」といいますが、三十七年の歴史をつみ重ねて今日をなしたわが母校が、たてまえだけで論じられるのはあまりにも残酷であり、なっとくできません。

昨日や今日ポイと生まれた学校ではないのです。三十七年は、六千五百人の卒業生みんなが、石ころ道をふみ固めて歩いてきた年月なのです。それを基礎にして、清友は府立に移管されるのではあり

ませんか！！

清友の名の上に

新しい歴史を重ねよう

清友の名のもとに培われてきた学園の心と歴史は、名校と共にほこりをもって引きつがれるべきものです。私たちは堂々とそれを主張したいのです。

河合さんの言葉をくりかえしま

ホントですか？

清友の名がそのまま府立高校に引きつがれるかどうか決まっていって！

みじめやワ、母校の名がなくなるなんて、そんなガマンできないワ！

会員の声

● 校名が消えたら、私はどこの卒業生になるの？

● 就職やお嫁に行く時、履歴書や釣書に書くのに、「そんな学校有った？」といわれたらどうしよう。

● こともに「お母さんどこの学校

校歌・校章は？

校名存続が未決定の不安から、校歌は？ 校章は？ と心配の声もきこえます。

どうなるの?? ではなく、もちろんかえる必要はない!! と私たちは言いきりましょう！

なにわ津 大阪のシンボルである波と梅そのものの校章、学制改革で色や文字はその時々にかわりましたが、校章の示す心は不変のものです。

そして校歌—当代一流の教育者として世に聞えた方々が、無私の愛と若きものへの願いをこめて作詞作曲して下さった、若さと希望にあふれ格調高いそれが—これからの母校にふさわしくないものだとは思いません。……男子生徒の入学によって多少歌詞を考えることがあるにしても……

特集を読んで下さい

意外であり残念でもあることの一つは、まれではあります、会員の中に母校の歴史や校歌・校章の由来、占春会の名のいわれを知らない人や聞いていなかったという人があることです。

これではならないと思ひ、西沢先生にお願いして「これぞ我が清友」を特集しました。

清友の名を存続させるために、私たちはもう一度「守るべきものの歴史」をかみしめてみようではありませんか。



特

集

これぞ我が清友

清友創立以来三十七年の歳月が流れました。やがて生まれ変わる日のため、古きをたずねて新しきを知るよすがにとも思い、そのいわれのあれこれを書きとどめました。

◆清友の名は

昭和十五年、大阪府立清水谷高等女学校は創立四十周年を迎えようとしておりました。当時清水谷高女は、家庭主義を標榜して、温かい家庭的雰囲気の中で、温雅な子女の育成に努めて居り、その校風を慕って数多の子女が集まりましたが、なかなか望を叶えることができません。多くの人々の嘆きを目のあたりに見た同窓会の人々の間に、清水谷の流れを汲む妹校を建て、清水の流れを慕う人々を入れようではないかという案が持ち上りました。時恰も紀元二千六百年、この年と清水谷創立四十周年を記念して女学校設立のことを同窓生に呼びかけて多くの人の協力を得、翌十六年、開校の運びとなりました。

◆本校教育の八綱領

昭和十六年の初めの頃でしたか、当時、清水谷高女の校長であられた生田鹿之丞先生から、「清友学園のことで打ち合わせをしたいから、清水谷高女に来るように」というお葉書を頂きました。当時私は清友へよせて頂く日を夢みながら、恵美小学校に勤めていました。日々待ちこがれていたこのお知らせは、夫亡きあとの私の半生の中で、最大の喜びであったといってもいいでしょう。その日、生田先生の許にはせ参じたのは、浅井重次先生、八雲延代先生、山家鉄五郎先生に私でした。中庭で撮った記念の写真は今も大切にしまっておりあります。その春開校する学校についていろいろ打合わせをしました。その中でどうしても忘れられないことが二つありました。それは、生田先生が熱意をこめて語られる女子教育の構想をおききしているうちに、私は生涯先生の許で女子教育に携わらせて頂くことと決心したことでした。もう一つは、女子教育の理想をいろいろ考えてこういふ言葉で表わしたといつて、本校教育の八綱領を示されたことです。生田先生が、理想の女性像として心に描いておられたことを抽象化して八つの言葉で表現されたものです。

- 一、忠誠なる臣道
- 一、優越なる体位
- 一、真摯なる勤労
- 一、恭敬なる礼儀
- 一、醇厚なる情誼
- 一、堅固なる節義
- 一、温雅なる気品
- 一、至純なる母性

◆校歌の変遷

次にあげるのは、昭和十六年、清友学園高等女学校が創設された時、初代校長生田鹿之丞先生が作詞され、永井幸次先生が作曲された校歌であります。

校歌

- 一、朝日かがやく 信貴のみね
- 夕陽にはゆる 茅渚のうみ
- ここ高安の 丘にして
- 自然の啓示 いとおほし
- 無言のさとし 胸にひめ
- 人の智能を ひらかなむ
- 二、南にかすむ 金剛や
- 北に四条の 暁見る
- ここ曙川の 里にして
- 偉人の感化 いとふかし
- 楠母のかがみ 身にしめて
- 婦の徳を みがかなむ
- 三、昔のをしへ 石清水
- 今も流れて にごりなき
- ここ清友の 園にして
- 乙女の情操 いとやさし
- 勅語のむねを かしこみて
- 天つ御業を あぶがなむ

さて名前は、清水谷の同窓会、清友会の名を取り、清友会高女にしようかとも考えられましたが、将来、幼稚園から大学までの一大学園に発展させようとの希望をもって清友学園と名づけられました。このことは、創立当初清水谷高女の校長で、後に清友の初代校長となられた故生田鹿之丞先生か

ら伺ったことです。その後、清友学園は八尾市立となった昭和三十一年より清友高校と呼ばれるようになりました。

私もこの八つの理想の実現を目ざして努力しようと心を決めました。その後、草創の意気に燃えた新入生百人と心を合わせて、その実現に励んだのであります。毎日終礼の時にみんなで唱和して、一日の別れを告げました。早く終ったらともじもじしている人もありましたが、単なる徳目主義といいたくない無形の何か、皆の心の中にしみこんでいったようでした。真摯な勤労の心を持ち、情味あふれる温い心の持主で、礼儀もよくわきまえた女性が育っていき



初代校長 故 生田先生



二代校長 故 吉持先生

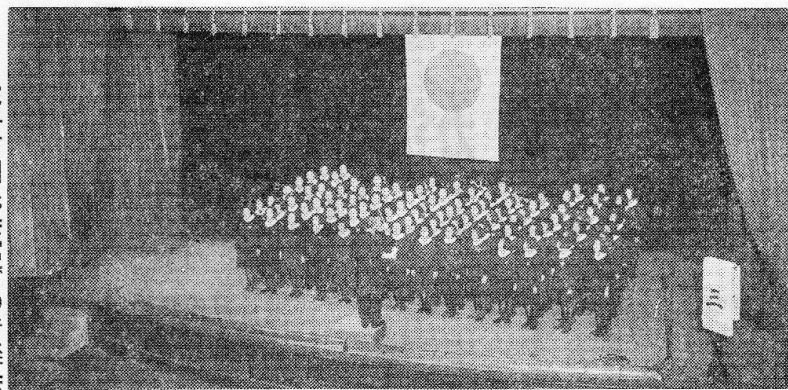


三代校長 富田先生



現校長 小西先生

清友学園は昭和十六年四月に徳道の仮校舎で開校、翌昭和十七年九月高安の地に新校舎が竣工しましたが、それまでに度々高安の地を訪ねられた生田先生が、現在の木造校舎玄關上の二階の窓辺に立って、周囲の美しい自然を眺め、新しい女子教育への思いをこめて作られたものです。この美しい環境の中で、賢く、優しい女性を育てようとなされた先生の願いが、側々としみ出ているような美しい歌詞でした。当時、清友の音楽教育に力を注いで下さった、大阪音楽学校校長の永井幸次先生が、この歌詞にふさわしい静かな



大手前国民会館での音楽会

美しいメロディーの曲をつけて下さいました。この校歌が、落ちついた美しいメロディーであったのに対し、次のような歌詞で、身も心も躍動するようなもう一つの校歌がありました。

われらの錬成（副校歌）

一、
梅と水とに象れる わが学園の
校章を
胸に大気を吸ひこみて 日々錬
成す
大八洲榮ゆる国に 清友の
あからをやしなふ若きわれら

二、
八綱領に織りなせる わが学園
のをしへ草
萌ゆる大地をふみしめて 日々
錬成す
大東亜率ある国に 清友の
精神をつちかふ若きわれら

これらの歌を声高らかに歌いつづけていくうちに昭和二十年終戦。すべてが変って行く中で、校歌も生まれ変わらねばならなくなり、生田先生が再び想をねって新しい校歌を作られました。草稿をお見せいただいでご相談を受け、やがて完成したある日、今の木造校舎一階の教室に 員一同集り、

私が歌詞を黒板に書いて披露、新しい校歌と決定したのが次の校歌です。

現校歌

一、春雪淡き 生駒嶺を
のきばにのぞむ わが学舎
寒さしのぎてさく梅の
たかき薫香 友どちよ
ともに学ばむ けがれなき
清さたもちて
いざ起たむかな

二、秋色深き河内野の
ほとりにたてるわが学舎
波とそよぎてみるの田の
こがねの垂穂 友どちよ
ともに修めむ おごりなき
床しさひめて
いざ起たむかな

やがて永井幸次先生によってこの歌詞にふさわしい美しい曲がつけられました。春にさきがけて花開く梅のりりしさ、秋豊かなみりを見せる垂穂の床しさを、清友の心として歌ひ上げられたこの歌は、美しいイメージを清友生の胸に与えつつ歌いつづけていったのでした。昭和三十一年清友学園が八尾市立になった時、清友の校名と、梅と水の校章と、この校歌はそのまま引き継がれ生き続けてきました。八尾市立になって後、永井幸次先生にお会いした時、「校

歌はどうなった」とおききになったので、「八尾市立になってもあの校歌をずっと歌いつづけています」というと「そうか」と嬉しそうに言われたことが未だに忘れられません。



故永井幸次先生

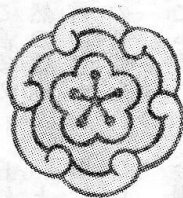
◆校章の由来

創立当初の校章は、水色の地に白い波とうす桃色の梅とをあしらった七宝焼の美しいものでした。

この校章は、もと白梅に水をあしらった清水谷高女の校章でしたが、清水谷では大正十二年ごろの中に梅と水とを配したものに改められ、古い校章は講堂の奉安殿の扉に残されておりました。昭和十六年清友学園誕生の時、妹校の校章としてこれを譲り受け、創立当初の美術の浅井重次先生が紅梅として配色を考えられ、水色と、白と、うす桃色の美しい七宝に定められたのでした。戦後学制改革で、中学、高校となった昭和二十二年、もとの高女の校章はそのまま中学のに、高校のは少し型の小さい銀製の無地のものになりました。その高校だけになった時、

梅の中に高の字を配した銀製で、地を白く梅を紫色に色どったものに改められ、後、銅の台に色をメッキしたものに変わり、その後ずっと用いられています。
きびしい寒さに耐え春にさきかけてかぐわしく花開く紅梅のゆかしさ、之に配するに、さらさらと淀みなく流れてものみなを浄化せずにはおかぬ水の清らかさを心として、この校章は三十余年生き続けてきました。

創立当時の校章



20年後半時の銀無地の校章

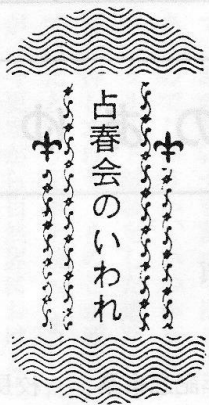


現校章



創立当初の生徒たちは「清友を日本一の私立校に」と胸を張り、誇りと自信を持って新しい校風の樹立に努力し、その象徴として胸に校章、帽子に帽章をつけたものでした。しかし、昭和二十年も終るころ、年々生徒数が減少していき、生徒はすっかり誇りを失って、清友生であることを隠した

がり、校章は形骸だけを止めるようになりまし。自分の学校に誇りを失い、校章を隠したがる生徒ほどみじめなものはありません。この現状を何とかせねばと立ち上り、三十一年、八尾市立清友高校として第二の誕生をみた時、生徒は誇りを取り戻し、再び胸に校章が輝き出しました。爾来二十余年、時代の流れの中で、生徒の心の中から校章への思いが次第に薄れてゆき、忘れられたり、落したり、胸に校章の見られない事もしばしばとなりまし。心の通わない校章は形骸に過ぎません。いま一度校章の心を思い起こし、再び清友に自信と誇りをもって胸に校章をつけ、第三の新しい出発をする日を迎えたいものです。



清友高校の同窓会の名を占春会といひます。
昭和二十年春、創立当初より苦楽を共にした第一期生百名が、めでたく卒業の時を迎えました。童顔を綻ばせて殊のほか喜びになられた、初代校長の故生田先生は、早速同窓会に清友にふさわしい名をつけよと、清友の象徴である梅の花に因んで、有名な徳川齊昭の次の詩を思い起こされまし。

弘道館賞梅

徳川 齊昭

弘道館中一樹梅
清香馥郁十分開
好文豈謂無威武
雪裡占春天下魁

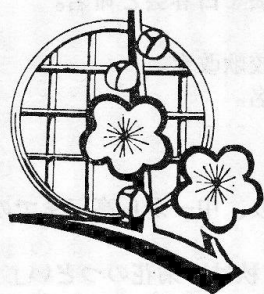
この詩の最後の一句より採って占春会と名づけられたのです。その時記念に先生は次の詩を詠まれました。

清友学園高女同窓会名採之干水
戸烈公弘道館賞梅花之詩謂占春
会仍次韻以寄第一期卒業生一百
名

浅深紅白滿庭梅
教養多年一樣開
莫道園中才子少
百株皆是萬葩魁
乙酉 春日

松軒 生田周

詩の心は、多年の教養がここに実を結び一様に美しく菓立つていく卒業生を、春のさきがけとして、紅白とりどりに花開く梅花に擬えられ、「園中才子少しりいかなかれ」と祝福せられたのであります。初めての卒業生を送り出された先生のお喜びの情が迫ってくるようです。梅の花に因んで名づけられた占春会の名を、もう一度名づけ親のお心を思いつつ味わってみましょう。



来春第三の誕生を迎える時、清友の校名と、校歌、梅と水の校章と、占春会の名とはどうしても守り抜きたいと思ひます。
三十余年を清友生の心の中に息づいてきた梅と水とは、清友の象徴として清友のある限り生きつづけさせたいものです。徒らに旧きを追い、執着するものではありませんが、何もかも移り変わって散逸してしまふことを憂えて、一筆認めた次第であります。

(五三・三・一)

昭和四十六年秋、第一期生のクラス会をした時、古い校歌の話が出て皆で思い出しましたが、歌詞のすみずみまで定かではありませんでした。その後、中喜美子様が貴重品袋の中に大切に保管して下さった必携簿から写して送って下さいました。また他の一期生から八綱領の切り抜きを頂きました。このようにして八綱領や旧い校歌は、卒業生の手によって守られた貴重な資料であることを付記しておきます。

先生方へお願い!

「清友」の名が残らなければ先生方の教え子は、今日まで手塩にかけてご教育くださった大ぜいの娘たちは、母校を失ってしまいます。

わが出身校の名を口に出せなくなつた肩身の狭さと、心のよりどころを失つた流浪の哀しみとを、生涯負い続けてゆくことになつてしまいます。

人に母校というべきものは幾つかあります。しかし先生方の

「会計感激のおたより」

教え子にとつて、清友高校は、青春を生きたあかしであると共に、実社会への出発の基点として、実際のにも精神的にも必要不可欠な唯一のものなのです。
占春会員にとつて絶対の条件だつた「清友の名を残す」ことが未解決であることは、会員すべてにとつて大きな不安です。移動が決つただけでは、ことは完了していません。同じです。先生方、「清友の名を残す」ために、これから、よろしくお願いいたします。

会報をいつも有難うございませ。とても楽しみに待ちながら会費を納めた記憶がございません。こんなとんまな会員がいたので昨年の様に会報が発行出来なくなつても不思議はないですね。役員の方々には苦勞をかけてしまつて申しわけありません。これからは出来るだけ納めますのでよろしくお願ひ申し上げます。初めて「占春会」のいわれを知りました。茨城に住む様になつて早八年になります。こちらはうぐいすやおながを初め諸々の鳥達の声を聞きますが高安の方はどうでしょう変わったでしょうね。駅から学校までの川にそつた道、先に緑の桜の大木に囲まれた学校を歩く道、私の大好きなつかしい

東北本線の古河駅下車徒歩三〇分位の所です。
とりとめもないことを書きましたが、ただなつかしくて胸がいっぱいです。わずか参千円位ですが私の心ばかりの会費として納めさせていただきます。
おんぶ、だつこの会員がいて大変でしょうけれどよろしくお願ひ申し上げます。
茨城県猿島郡総和町上辺 見四七五―一七 岡崎典子

清友37年のあゆみ

年 月	要 項	備 考
(1) 清友学園高等女学校時代		
昭和15. 6.13	府立清水谷高女創立40周年、紀元2600年記念事業として、同窓会清友会が女学校設立を決定。昭和16年開校予定。校名を清友学園、用地を高安と決定。	校長生田鹿之丞 専任教員 八雲延代、浅井重次、山家鉄五郎、西沢小枝
16. 3.10	財団法人清友学園に清友学園高等女学校の設立認可。八雲延代校長事務取扱に就任。	生田校長により、本校教育の八綱領制定。教育方針定まる。
16. 4.11	布施市横沼町3丁目の仮校舎において開校。	新入生100名、4月10日に清水谷高女講堂で入学式。
16. 5.10	この日を創立記念日と決定。	生田校長により校歌制定。
16.12. 8	太平洋戦争勃発。	戦時下体制に入り、校庭に甘藷畑を作り、農作業に励む。
17. 5. 5	前府立清水谷高等女学校校長 生田鹿之丞校長に就任。	
17. 9.23	現在の地八尾市柏村169に新校舎竣工移転。	木造二階建
19. 7. 4	学徒動員令下り、4年生、3年生動員。	4年生煙草専売局・製薬会社・3年生近鉄高安工場・中松ガラス工場にて生産に励む。 生田校長、同窓会を占春会と命名。
20. 3.31	第1回卒業式挙行。卒業後も専攻科生として残り動員。	
20. 8.15	終戦。動員終り解散。	生田校長により校歌改定。
22. 4. 1	新学制により、清友学園中学校を設置。	中学入学生150名。
(2)清友学園高等学校時代		
23. 4. 1	新学制により清友学園高等学校を設置。	学園に平和もどり、中一から高三までの学園となる。
26. 2.18	講堂兼体育館竣工。	春は「雛まつり」秋は「菊花のつどい」「バザー」を催す。
26. 3. 8	学校法人清友学園となる。	それらをやめ、文化祭とする。 体育大会は前より引つづき催す。
28. 1.30	校長生田鹿之丞退職。府立清水谷高等学校教諭吉持博校長に就任。	生田前校長30.6.12逝去。
31. 8.31	清友学園中学校を廃止。	この頃より八尾市に移管の話もち上げる。 八尾市に移管決定。
(3) 市立清友高等学校時代		
31. 9. 1	設置者を八尾市に変更、八尾市立清友高等学校の設置認可。 清友学園高等学校の教職員および生徒全員を市立清友高校に継承し、吉持博校長に就任。	清友の校名、校歌、校章、制服、同窓会名、女子校としての創立の精神はそのまま引きつがれる。
31.10. 8	この日をもって開校記念日と決定。	
35 ~ 40	鉄筋三階建、体育館兼講堂、校門増改築。	この間、全校に清新の気みなぎる。
41. 2.15	創立25周年、市立10周年記念事業として食堂・図書館竣工。占春会より中庭の芝生、樹木寄贈。	
41.10. 7	記念式典挙行。記念誌発行。	25年の歩みをまとめて記念誌作成。
42. 3.31	校長吉持退職。	吉持前校長42.7.3逝去。
42. 4. 1	富田一郎校長に就任。	
45 ~	府立移管問題起こる。 八尾市および大阪府と折衝。 用地の決定遅れる。	入試の総合選抜制とからんで、清友の府立移管問題起こる。 職員、PTA、占春会、移管問題促進に努める。
50. 3.31	校長富田一郎退職。	
50. 4. 1	小西康弘校長に就任。	
53. 2	54年度に府立移管の予定。 新校舎建設用地干塚と決定。	実現の日に備えて諸準備。

校長随想



学校長 小西 康弘

今年もこの間まで、例年より遅咲きの桜が、玉串川沿いの通学路に、校庭にと咲き誇り、生徒や、道行く人の目を楽しませてくれて

いましたが、今は早や、葉桜の新緑が美しい季節になりました。春はすべてが灰色から、緑色への明るい希望の色を出させます。あちこちでは、土を割って新芽が出てくる、あの柔かなものがどうして、あの堅い土を割って出る力があるのでしょうか、いつか新聞でコンクリート舗装をした道路の一部を押しあげて、きのこが成長していたという記事を読みました

が、今更ながら自然界における生命力の旺盛さ、力強さを非常に感じたものです。生きとし生けるもの、それぞれに精一杯、自分の持っている力を發揮して生きています。姿は美しいものです。決して背伸びをする必要はない。じっくり自分のペースで歩み続ける人は、平担な道の一つ、一つにも、しっかりと、自分の足跡を残していく人だと思えます。深い淵の水は音を立てないで流れている、浅瀬の水は音を立てずには、流れられない

い。いつもあの淵()のように静かでありたい。しかし平凡な人間は、いつでもちよつとしたことに、心の波が立ち、心の瀬音が立つ、私達は、なにごとにもあせらずに、冷静に考え行動するよう努めたいものです。卒業生のみならず、それぞれの持場で、懸命に頑張っておられることと思えます。今後とも、お元気で活躍されますことを願っています。

さて懸案になっていきます、本校の府立移管問題について、その後の経過と、今後の予定を述べます。移転する場所の用地問題で難航していましたが、このほどやっと解決し、買収が完了しました、建設予定地は、八尾市千塚で、近鉄服部川駅北約八百呎のところでは、現校舎より、東北に約三詩よったところです。付近には、花卉栽培をしている農家が多く、信貴、生駒の山並みをすぐ間近に眺める静かな環境に恵まれたところ

です。大阪府では、本年度の予算に、新校舎の建設費十四億七千万円を計上してくれています。この予算では、普通教室二十四教室、特別教室、管理室、体育館、食堂等が建つことになっており、竣工時には在校生が全員移れるように

なっています。また男女共学に伴う生徒増に対処して、翌年度も、普通教室、特別教室、プール等が追加して建設されることになって

います。ただ、建設予定地に古代から中世にかけての遺跡があると

のことで、現在発掘調査が行われており、若干工事がこの関係で遅れるのではないかと懸念しております。また服部川駅周辺が非常に狭隘で、これの整備問題などがありませんが、五十四年四月の府立への移管は、ほぼ間違いのないと思っております。今後、移管に伴う問題として、従来から要望しておりました校名の問題等については、さらに府当局とつめる必要があります。また校舎の建設等については、出来るだけ理想的な教育が出来るよう、施設面での要望も出ております。これらの問題については、今後とも府立清友高校建設準備委員会の方々と歩調を合せ

て、府当局、市当局と話し合いを続けていきたいと考えています。府立になれば男女共学にもなることになっていきます。生徒指導その他の問題で、いままですらに困難なことが起ることも考えられます。それらに対処して内部でも、

少しづつ検討を始めていますが、清友高校が大きく発展し、生れ変わっていく中の苦しみ、しばらく続くことでしょうか。しかしそれを乗り越え、卒業生及び清友関係者の期待に応えられるよう、今までの良き伝統は残しつつも、新しい学校づくりを進めていきたいと考えています。皆さんにとつ

て、懐かしい現校舎も今年度かぎりになりそうです。今年の総会には、一人でも多くの方が母校へ来られることを望んでいます。



教頭 安田 圭造

中庭の芝生のみどり、自然の美しさがひととき目立つ季節がやってきました。学校も新学期を迎えています。占春会の皆様にはお変わりございませんか。ますますご活躍、ご発展のことと思えます。

府立移管問題もいよいよ大詰に近づいてまいりました。来春までには八尾市千塚の地に新校舎を建設移転し、五十四年四月に府立移管が実現する見通しです。次に学校内のことについてお知らせします。

- 一、職員異動について
- (転退職)
- 徳田正俊先生(英語) ↓ 府立西浦高校へご転勤
- 金森 保先生(国語) ↓ 府立西浦高校へご転勤
- 中本新一先生(社会) ↓ 府立池島高校へご転勤
- 奥 武文先生(体育) ↓ 府立大正高校へご転勤
- 松村俊子先生(助手) ↓ 五十二年四月十一日付でご退職

他に、非常勤講師の伊藤真吉先生(国語)・和泉克明先生(物理)が五十二年三月三十一日付でご退職になりました。

(新任)

- 吉岡 哲先生(社会) 関西大学大学院卒、市教委より
- 東川有美子先生(国語) 武庫川女子大大学院卒
- 奥田文明先生(英語) 大阪外国語大学卒
- 中野泰三先生(体育) 京都教育大学卒
- 杉本 恵先生(助手) 同志社女子大学卒

他に、非常勤講師として、角野美智子先生(英語・52年9月着任)・中川治三先生(国語)・杉本栄先生(国語)・長岡正宏先生(社会)・山口己三男先生(物理)が着任されました。

- 一、五十二年卒業生の進路
- 卒業生総数 259名
- 就職者数 119名
- (主な就職先)
- 松下電産(3)日本生命(3)三和銀行
- (2)大和銀行(2)泉州銀行(2)八光信用金庫(2)日産サニー(2)島田商會
- (2)大阪教科書(2)近畿配管(2)住友銀行(1)三菱銀行(1)三井銀行(1)日興証券(1)大和証券(1)神鋼商事(1)塩野義製薬(1)明電社(1)大林組(1)松下電工(1)住友化学(1)等
- 進学者数 134名

(主な進学先)

四天王寺女子大(2)帝塚山学院大
 (2)近畿大(1)花園大(1)大阪学院大
 (1)大阪芸大(1)奈良大(1)英知大(1)
 橘女子大(1)(以上四年制)
 常磐会短大(10)帝塚山短大(10)成蹊
 女子短大(7)夙川学院短大(7)金蘭
 短大(6)大阪女子学園短大(4)大手
 前短大(4)薫英女子短大(4)四天王
 寺短大(3)愛泉女子短大(3)等

一、在校生について

生徒数は、本年度は一学級四七
 名となり、二八二名の生徒が入学
 してきました。従って総数八一五
 名となっています。

在校生達は、一般にのんびりと
 楽しく学校生活を送っているよう
 です。目立った活動としては、個
 人的なものが、ソフトボール
 部から北野さん、花山さんの二名
 が青森国体へ大阪選抜チーム(監
 督は本校の逸民先生)の一員とし
 て出場しました。

今年には体育大会と文化祭を合せ
 て学園祭的なものとして、その盛
 り上がりねらっています。文化
 祭は10月7日(土)10月8日(日)
 に、体育大会は10月15日(日)(雨
 天の時は10月17日(火))に開催の
 予定です。

一、その他の消息

(ご結婚)
 中野(友清) 知恵先生
 五十二年十月ご結婚

(赤ちゃん誕生)

吉岡 哲先生
 長男・哲史ちゃん五十二年四
 月誕生
 仙丸佳子さん(事務室)
 長女・陽子ちゃん五十二年十

二月誕生

(ご逝去)
 山家鉄五郎先生(旧職員)
 五十二年四月ご逝去
 中野幸次郎先生(歯科校医)
 五十三年一月ご逝去



足立せい子先生

『お元気ですか?』 私も、何は
 ともあれ生きています。本当に生
 きているのかどうか疑問もありま
 す。人生の折り返し点をと
 つくに過ぎた年頃になると、何度
 も人間の小ささや哀しさに、無惨
 さにさえ出合い、諸行無常の感じ
 を深くします。しかし在校生やO
 Bの皆さんは、まだまだ青春の真
 唯中、朝日に向かって翔んで下さ
 い。そのまばゆい様な美しい姿態
 で、力強く跳んで下さい。私には
 それが見える様な気がします。ど
 うぞ御幸福に。

小沢真理子先生

清友を去ってから二年近くにな
 りますが、その間こちらは何の変
 化もなく、主婦としての平凡な毎
 日を送っています。

時々、卒業生から手紙や電話を
 いただき、私を懐かしく思っ
 て下さる気持ちをたいへんうれし
 く思います。

九州にお越しになったら、ぜひ
 気軽にお宅にお寄り下さい。

807北九州市八幡西区浅川
 県公社浅川団地900-202

金沢 和雄先生

現在、猪名川の西、弥生時代の
 遺跡(加茂遺跡)の近くにある県
 立川西高校に奉職して、元気に高
 校教育に微力を尽しております。

回顧すれば二十七年前の昭和二
 十六年四月清友を去って神戸へ転

動して行ったので、春になり新学
 年度を迎えると清友時代をなつか
 しく思い出します。

二十二年末ソ連抑留生活を終っ
 て帰還、生田鹿之丞元校長にすす
 められ、二十三年一月から、まだ
 高等女学校の名前が残り、新制高
 校・中学が発足したばかりの清友
 学園に勤めるようになりました。

美術の浅井教頭、音楽の永井先
 生、体育の石田先生、社会科の川
 畑先生、聖徳太子像を造られた、
 和泉華光翁等々、ご壮健に活躍し
 ておられました。

信賞風の吹く校庭で鉄谷先生等
 とソフトボールをしたこと。当時
 あった農園をつぶして作ったコー
 トで吉田先生やテニス班の生徒等
 と白球を追って汗を流した夏季練
 習・寒中練習のこと。尾崎・内海
 先生ご指導による家庭科実習で生
 徒の作った試食をご馳走になった
 こと。山家先生に農園で野菜の作
 り方を教えてもらったこと。樫
 根・斎藤先生等とバザーの準備を
 遅くまで残っていたこと。西沢・
 大津先生のお手伝いをした学校図
 書館のこと。すべて思い出深い
 ことばかりが走馬燈のように脳裡
 を過ぎ去ってゆきます。

最後に清友高校、並びに占春会
 の弥栄とご発展を祈り上げます。
 662西宮市上甲東園三丁目七十六

小阪 義三先生

前略
 府立美... 校へ転勤して、もう

二年目をむかえる時期になりました。
 た。新設校初の卒業生を送り出す
 年度に、三年生担任を引き受ける
 忙しい毎日です。毎日
 毎日曜日は野球部の付添。平日
 は生徒指導と補習と会議の連続が
 放課後をうめています。でも毎日
 がほんとは充実しすぎていて、こ
 わいくらいに早く時間がたちま
 す。

児玉 節雄先生

昭和二十九年以来、中学生を集
 めて勉強を教えています。石田先
 生を偲んで詩を吟じたり、時にゴ
 ルフクラブを握ったり。声の大き
 さだけは昔のままです。
 581八尾市本町二丁目十三番十一号
 電八尾23-四三九四

佐伯 忠男先生

ながらく御無沙汰致しておりま
 す。近くにおりましたも何かと忙
 しく毎日を送っており、失礼を重
 ねて申訳ございません。小生御校
 にお世話になって以後府立堺工高
 へ転勤し、現在は花園高校で七年
 目を迎えるようになっています。実
 に月日の立つのは早いものでござい
 ます。校務分掌は教務をしていま
 す。思うようには生徒は勉強して
 くれませんので大変です。

今後ともよろしくご指導下さい
 ませ、まずは近況報告まで。
 東大阪市中小阪二一七の二

中井 孝夫先生

雪の残っている庭の木々で、ウグイスが快い鳴声を聞かせてくれ、ようやく春本番というところだ。

四十八年四月に、全国的にもまれなホーム制をとっている県立若狭高校へ転勤し三年間勤務、現在母校の勝山高校勤務三年目です。

この学校は進学に力を入れ、毎日課外授業を行っています。三年進学クラス担任で、ゆとりのない忙しい日々を送っていますが、山岳部顧問もしており、時々生徒達と山へ登るのが楽しみの一つです。

三年半の間お世話になり、居心地のよい懐かしい清友高校を思い出しますと、すぐにでも行ってみたい衝動にかられます。あのころ生まれた長男は五歳に、長女は二歳になりました。

こちらの方へお越しの節は声をかけて下さい。

末筆ながら皆様のご健康とご活躍をお祈りしております。

912-01 福井県大野市橋爪一三ノ三二

中本 毅先生

拜復、桜前線の到来により桜花も盛春を告げております。

貴校の益々のご隆盛を心よりお祝い申し上げますと共に、占春会のご発展と会員の皆様のご多幸でありますよう祈念してやみません。

さて私は長い小学校生活を去る昭和五十一年三月停年退職し引続いて大阪女子商業高校に奉職しております。

『人は第二の人生か』とかいいいますが、私はやはり第一の人生の延長として担任も持ち、今までの自分の不備のお詫びと報恩のため毎日経験と反省の上に立って責務を全うしたく念じながら頑張っております。反面、休日は思いきり自分の趣味と憩に活用し、明日への浩然の気を養っております。今でも清友の校章をつけている生徒さんを見るとなつかしく、声をかけたい念を押えるのに懸命で、なつかしい学校です。諸先生のご健闘をお祈りします。

中田 順造先生

私が清友高校の体育科教員として在職したのは、昭和三十六年〜三十七年の二年間という短い間でした。しかも大学を卒業したばかりの西も東もわからないヒヨコで、いろいろと失敗ばかりしていましたが、思い出の多い二年間でした。

その後大阪女子大学に転勤して十五年が過ぎ去りましたが、清友時代の、失敗を恐れず一生けんめいに授業した気持ちを忘れず努力して来たつもりです。

どうすれば楽しく意欲的に体育の授業を受けてくれるかを考え、'楽しく鍛える運動'なる拙著を、さらに今年にはボールを使った

遊戯運動を内容とした'ボールプレイ'を出版する運びとはなりませんが、まだまだ視野の狭い不充分なところがあり、さらに精進せねばと、相変らず意欲だけは旺盛な今日このごろです。

中村 邦治先生

勤務先 堺市大仙町 大阪女子大学

九十五歳の山家鉄五郎先生をお手本にして私も生きて行くつもりであります。それはさて、時折生田先生が偲ばれます。そして先生が占春会の現況をご覧なされたら、さぞやと思えます。

宗平大三郎先生

皆さんお元気ですか。僕も相変わらず元気です。こちらに来てはや九年立ちました。娘が高三、息子が中一になりました。清友では四回、千里では二回、担任学年が卒業して行きました。今年是一年生の担任です。教師生活二十一年、このごろはよく同窓会に呼ばれたり、卒業生が家に訪ねて来たりして、うれしく飲んで歌って、ごきげん上々です。花とみどりの美しい千里の春、ときどきうぐいすや山鳩が鳴いたりします。また遊びに来て下さい。

565 吹田市山田西三ノ二十一千里レックスA-1417
電〇六一八七-18817
勤務先 大阪府立千里高校

思い出の中の清友

徳田 正俊

毎年桜花の季節になると、春の息吹と共に清友の学校生活にかけると共に夢が新学期の開始と同時に僕の心の中にどこからともなく胎動して来るのですが、今年も清友の皆さんとお別れすることにになり、往時を忍んで尽きない感慨に耽っています。

今年四月近鉄南大阪線古市に新設になりました府立西浦高等学校に転勤することになりました。新しい学校は自宅より一駅隣のちよど古市古墳群として名高い所にあります。道明寺に移り住んで十年になりますが、今更に地元を第一歩を踏み込んだ感じがしています。

しかし、何と言っても始めて教職に就いた時から以後今日まで清友高校の一員として皆さんと共に学んで来た感慨は消えず、自分一人の青春を回顧して見ても、若き日の情熱のすべてを清友で消費し尽してしまつた残骸が今日の前にあることを感じるのみなので

す。かくして自分は一体清友の中で十五年六カ月間何をして来たのかと自問する時、困惑の気持ちをかくすことが出来ません。と同時にこのような自分を逆に寛大な気持ちで、長年の間許容して下さった皆さんに深く感謝せざるを得ないのです。

ともあれ、清友高校は日進月歩の発展を遂げて来たことは事実です。若き皆さんが躍動する学校全体がこれ程までに真面に着実に脈打っている学校は他にありません。自らに不甲斐のない僕が清友は日進月歩の発展を遂げて来たことを胸を張って言えるのは、その大きな学校全体の中に自分が確実に一員として参加していたのだというプライドによるもの以外の何物でもないのです。今僕は清友が今後共益々発展していくことを皆さんと変らぬ気持ちで希望しています。

清友名物の文化祭、体育祭、球技大会、耐寒訓練、よく走り、よく踊り、よく泣いてよく笑つたあの頃の思ひ出は尽きません、'The smiles, the tears of the girl's hood's years./The words of love then spoken.—T.Hood'

(少女の頃のあの涙、あの笑顔、愛の言葉語りしはその昔)では皆さんさようなら。道明寺方面へおいでの節には是非、おしゃべりに立寄って下さい。

鬚根

中 本 新 一

一番新しい占春会の会員が、私に、便りをよこしてくれました。その多くには、もう、清友高校へ通学したくとも出来ないと言う感傷と、未知の職場や学校で精一杯にがんばるぞ、の健気な決意とが、のべられています。在学中には、学校という拠り所があったけれど、企業の一員になったりした今、それから切り離されて、清友に望郷に似た想いをいだいるようです。

人間は、動物であるけれども、また植物のように、ある土地に住むうちに眼に見えない鬚根（ひげね）を伸ばして、そこからみついているものらしい……という意味のことを書いたのは、庄野潤三氏ですが、私も清友高校から府立高校に転動して日も浅い今、私の鬚根は、柏村一六九の三番地の周辺にからみついていたらしく、そこから自分を切り離してみると、他校へ移りながら、いわばホーム・シックのような愛着を前任校にいただいているのです。故郷を遠く離れて進学したり就職したりしたときに味わうホーム・シックとは、つまり根こぎにされた植物が、次の土地へ根づくまでの一時的に水分が涸渇（こかつ）した状態なのでしよう。新しい土地に根づくことが出来ない、それは黄色く枯れてしまふに違いない。そう意識するとしなやかに

わらず、人間は、家族や友人や仕事先や住んでいる土地から水分を与えられて生きている。この眼には見えない水分が、ずいぶん尊いものとおもわれます。私達は、風土を大切にしなければならず、風土から大切にされているのでしよう。大切に生きているのは、大切な尊いものを奪って生きているのでしよう。

です。屁理屈だけは一人前です。それは全部とっていい程自分のエゴの主張本能の欲求そのものです。どこでこれだけ狂ってしまったのか。社会の歪みもさることながら、戦後教育も反省の時期にさしかかったようです。このままでは「三四郎」の広田先生ではありませんが「日本は亡びるね」といつてみたくありません。生活指導の暇を見つけて授業に行っているといった状態です。



金森 保

会員の皆様御元気のことと思います。小生、長らく御世話になりました。清友高校を三月で退職、現在府立西浦高校に勤務しています。

清楚で上品な美しさをたたえた清友高校とは違い、今日の荒廃した教育の吹き溜まりとなっている新設高校では毎日驚くことばかりです。暴力事件、喫煙、不純異性交遊等、数限りなく起こるのはこの新設高校でも同じことなのでしょうが、小生を最も悲しませるのは、感覚の麻痺、感情の荒廃です。人間らしい優しさを失ってしまったような粗雑な暴言は全く聞くに堪えませんが、美しいものを美しいと感じなくなっているよう



なつかしの授業再現に参加して

総会の催「西沢先生の授業再現源氏物語」とある。

方丈記やつれづれ草は教えて頂いた。それらの文学がよしとほされた。それらの戦時中のことだ、源氏物語に至ってはもう論外。その後今までついにふれる機会はなかったのである。

正直、国語の時間が好きだったとは云い難い、が、「これは行かずばなるまい、いや行きたい」と思いは同じ者どもが、若手にまじって教室に集合した。

某嬢は「予習して行かなあかんのとちがうかな、読まされたらどないしヨ」と真剣に心配した由、まさに西沢門下の面目を發揮してくれた。ただし口だけで古ダマキ一同予習なんぞやらないのは勿論である。先生もそれは計算しておられる、第一テキストには当日はじめてお、にかかったのだもの：

さまざまな人に、さまざまに、文学とのめぐり合いがある。会者定離、若き日の西沢先生が、愛する方々との別離のお哀しみから、深く源氏の世界に沈潜してゆかれたことは、今、物のあわれを知る年になって、はじめてお聞きしたのであった。

さて、お話は「宮城野の小萩がもとへ」と進み、いよいよ佳境となったが、窓から入るのは昔ながらのそよ風、不覚にも失礼にも、ついコクリ、これも忠実な授業再現ではあった。

終了を告げたのは、何とカラシと鳴るあの大きなベル；和泉のおじさんが力をこめて振っておられたクラシックベルではないか！

藪先生の演出効果ここに極まるといふべきか——かくて藪先生のお授業を受けたことのない古猛女どもも、「いづれのおほむ時にや：」の一節と共に、かの長身の好男子の姿と優しさを目にも心にも刻みつけたという次第。

ああ、おもしろく楽しかったなあ、「去年一回だけです」とおっしゃる西沢先生をくどき落したから、今年もみんな参加しようよ。

先生！！予習はしてゆきませんが！！見のがして下さいね、そら、あてられたら、今は心臓で読みますけど…、でもあのリズム、いっぺん声高く読んでみたい気もします。

山家先生

追憶のページ

お別れ

山家先生のご葬儀は、おせい八重様が三河路に盛りとなった四月二十二日、今春としては珍しいほどうららかな日でした。

おなくなりになったのは十九日の朝で、おやすみのまま安らかに九十三歳のご生涯を終えられたということでした。

とにかく時間の都合のつくものが最後のお別れをと、ご葬儀に参列、お花を捧げてまいりました。

私たちにとって学問の師であり人生の師であられた山家先生、先生はまことにその全人格をもって私たちをご薫陶下さいました。

今は先生が与えて下さった有形無形のお教えを尊び、自分の人生の中に生かし続けようと思いません。

お教をうけた限りのものが敬慕してやまぬ山家先生、いまはきつと、太平洋戦争中ガダルカナル島での戦死が、先生一代の御痛恨事であられたであろうご長男、先立たれた奥様、お子様方と尽きぬ物語をしておいででありましよう。

ふかくご冥福を祈り上げます。

高女一期生 中野・島田

涙雨がそぼ降る五月十日、私達は山家先生が晩年の数年をお過ごしになった竹本様宅へ伺いました。

豊橋で新幹線を降り、タクシィで約十五分、新緑の生垣を入りまだ新しい二間つづきの「離れ」が先生の生前のお城でした。そこ

のお仏壇に先生のお骨がおまつりしてありました。有志の方々からお預りした御香典をお供えして、

青春の多情多感な頃、そして卒業後も折にふれて御教示下さったことを、心よりお礼申上げました。

振り返ってみますに、昭和十六年四月、清友学園に入学して二十二年に卒業致しますまでの九四年間、先生の様に清廉潔白な、よき

指導者に恵まれましたことは本当に幸せだったと思います。小生意気な私がいつでしたか、四苦について、「なぜ人間は生れてこなければならなかったのか」と質問した時、返答に窮して困っていらっ

しゃった先生の真摯な御顔が今も、ありありと目に浮びます。本

当に口先だけでごまかすなどということが、お出来になれない方でした。こんないい方が許されま

なら「古きよき時代の先生。そのもの」でした。

先生は明治十九年のお生れの由

その生涯は真に多事多難の日々であったと思います。でも、晩年は実娘のお世話になられて、お幸せの日々を過ごされこの四月二十日に此岸より彼岸へと旅立たれました。

私達も、先生の誠実な御人柄を範としまして、残りの人生を懸命に生きてゆきたいと思っております。先生、安らかに眠り下さいませ。ここに、先生の御戒名を記させて頂きます。

長寿院福智円満鉄山居士
ご冥福を心よりお祈り致します。

一期生 六嶋 頼子

山家先生の死をお聞きしたのが、ちょうど松尾先生のお宅にお訪ねしておりました時でした。お

もえば私達十期生にとって学校移管問題でほんとうに先生共々苦し

い時期でした。私達卒業後先生は

近大の方に転勤され何か深い理由

が何年か後、私も近大の近くに

嫁いでおりました処、ちょうど私

の家の前を足早に歩いて行かれる

山家先生をしのぶ

ことが出来ました。その時が最後だったと記憶しております。先生は努力家で独学で勉強なさったという印象もっております。授業中など執弁のあまり唾が飛んでき

たものでした。また黒板いっぱい

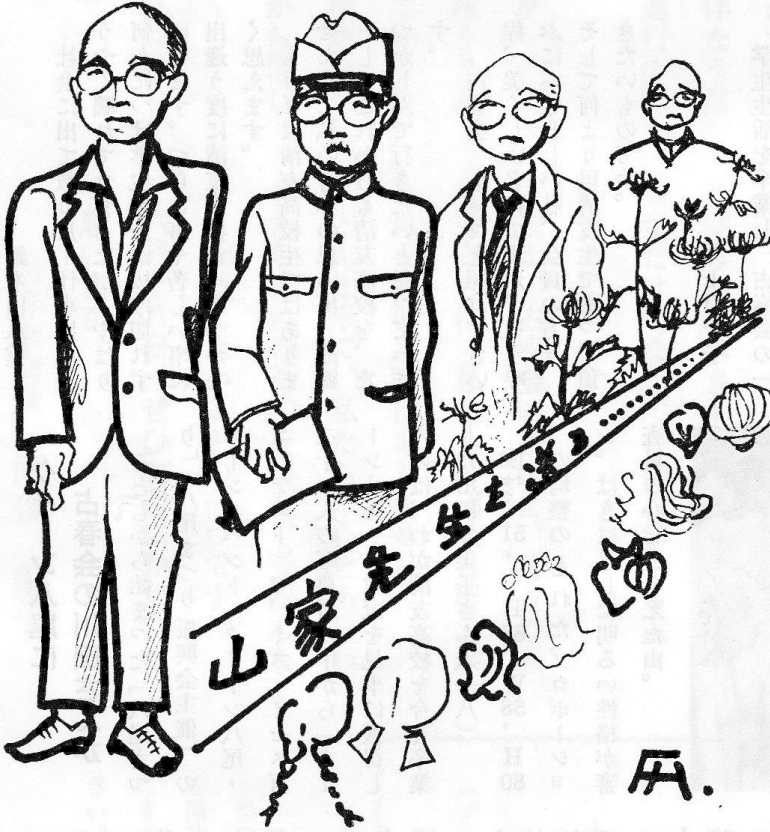
に書かれ、消しては次々と書いて

いかれそのスピードといったら、

それを書き写すのに必死だったの

が思い出されます。二、三年前の

会報に先生の近況が書いてありま



遠くは仮校舎の時代、図画展での優作賞を頂きに府庁まで私につきそって下さった——先生 さようなら

学校農園で、落花生が地下にもぐる事を教えて下さった——先生 さようなら

戦災で母を失い、失意の私をなぐさめて下さった——先生 さようなら

老後を実の娘さんにみとられ菊の花を愛し、お幸せだった先生 さようなら

(絵も) 一期生 原田房枝

新占春会員として

寺井 孝子

清友高校を卒業して、はや数カ月という、月日が流れました。

私は、清友高校を卒業することにより、占春会の新会員となりましたが、どう考えても、占春会の会員となったんだという気持ちになれずにいます。

まあ、しかし、大学もはじまりましたし、そしてやっと大学にもなれはじめました。

だからこのまま大学生としてやっていくうちに、ああ私は、もう大学生なんだなあとしみじみ思うようになれば、実感もわくかもしれないと自分かつてに考えています。

まったく無自覚ではありませんが、占春会の新会員として、どうぞよろしくお願いします。

河合 祐子

昭和五十三年二月二十五日、私達二五九名は無事に三年間の学業を修めると同時に、占春会の新会員となりました。私の場合、大学生活に入るまでは、それ程、清友高校を振り返って卒業生としての自覚を持つなどということはないのでしたが、今までと全く違った生活を送り始めると、辛い事、苦しい事に出あった時、清友高校のファミリー的な、のんびり

としたムードが懐しくてなりませぬ。

今、私は、高校時代とはまた異なる非常に充実した日々を送っております。それは、決して楽しいものではありません。今までで一番苦しい生活になりそうです。しかし、私は、清友高校にいた時、人生において、最も楽しい日々を送りましたので、これからは試験の四年間に自ら突入していくつもりです。

勉強量は、高校時代よりも遙かに多くなり専門的分野に縮小されてきました。今まで入部したことのない運動部に、しかも学内で一番厳しい体育会のクラブに入部しました。友人との交際も今まで通り大切にしてくつもりです。そして、四年後の事も色々と思案して居ます。占春会の先輩方や同学生の中でも就職なさった皆さんは、社会のあらゆる方面でご活躍なさっていらつしやると聞きましたので、またその時には、色々アドバイスして下さい。

占春会の役員の方々が、陰で御活動なさっていらつしやる困難さは、幼い頃から色々と拝見して参りましたのでよく存じて居ます。占春会の大いなる発展の為に、これからは、それを少しでも手助けして行きたいと思えます。まだまだ未熟な会員ですが、よろしくお願い致します。

鈴木田八重

社会に出て数カ月―仕事にもようやく馴れてきました。が、やはり何かにつけ学生気分が抜け切れずにいます。つらい事や苦しい事に出逢う度に清友高校が、なつかしく思えます。

もう私は清友高校生ではありませんが、私の青春の思い出、故郷としてこれからも清友高校を、なつかしんで行きたいと思っております。

「占春会」ちょっと照れくさい程、美しい名称ですが、そう呼ぶにふさわしい私、会員の方々、そして何より現清友生であって頂きたいものです。

井上百合子

学生生活を卒業し、占春会の一員となり、はや三カ月が過ぎ、社会人としての一カ月をおえた今、私自身、学生と社会人との大きな違いを感じています。

でも、学生生活を思い出している今は余裕がないといつていいほど仕事の時間に追われ、学生生活の甘ったるい時間がいまは、まったく消えてしまい、自分自身ごく充実した毎日をおくっているつもりです。

就職という大きなかべにぶつかりそして、それを乗り切っていくのは、むずかしいかもしれないけれども、乗り切れるようにがんばりたいと思います。

クイーン八尾に

占春会の川田さんが

ことしから始まった「八尾まつり」(八尾まつり振興会主催)のメインイベント「クイーン八尾・コンテスト」で、ミス・ミセス百二十一人の応募者の中から「クイーン八尾」の栄冠を見事に獲得したのは、わが清友高校を今春卒業した川田多美子さん(一八)。

158センチ、51キ、B83、W58、H80の均整のとれたプロポーション。はきはきとした明るい性格が審査員の心をとらえた由。



「クイーン八尾」は、容姿、知性、人柄をそなえ、河内の中心、八尾にふさわしい女性を選ぶ。

審査員は、女優の扇千景、関脇の荒勢、山脇悦司市長ら十人。笑福亭仁鶴の一口インタビュも混じえ、会場の市農協会館には、約七百人のヤブが詰めかけた。

「編集後記」

八尾市立としての会報も今年最後となりました。

会報をずらりと並べて見ていますと、皆様と苦勞を共にした事が思い出さずまいりませぬ。

よりよい会報を発行出来たのも原稿をいただきました諸先生方、又会員の皆さん方のおかげと厚くお礼申し上げます。

占春会の会員も六千五百人という多人数になり、その中から金一封を送って下さる様な心温かな人がおられる事は占春会にとりまして誠に心強いと存じます。

今迄の会報は、女らしく、優しく占春会にふさわしい会報でしたが男子共学校になれば、又一味違ったものになる事でしょう。

●變動のはげしい今日の世の中で、クラス会もやりにくいでしょうか、幹事の皆様頑張って下さい!!

●西沢先生、昨年の源氏物語の講義はグッと胸にせまりました。

●校長先生、府立になっても従来通り占春会は、はなやかに活動したいと思っております。

●山家先生がお亡くなりになった事は、本当に淋しくナンチンが聞けませんネ。

●クイーン八尾の川田さんを見習って占春会の皆様「ミスユニバース」にでも挑戦して見たら如何ですか。